

を支えてくれた芳山の仲間たち  
改めてお礼を言いたい。ありがと  
う。ハートフルなコメントで来週

諸般の事情でほとんど不参加とな  
り、今後に課題を残した。

10月頃より準備が本格化し、参加  
希望の山口、長岡、青木、中村ら

昔は人々の心も実に温かかったの

である。それが今では車で3時間  
である。こころの触れ合いも無く  
なった。途中道を間違ったりした  
が早々と戸台着。戸台は14年振り  
だったがあの山、あの川、あの小  
屋、あの坂道は何も変わっていな  
かった。変わったのは私が年を  
とったことだけで、若いパートナー  
を見ていると隔世の感があった。

戸台川の河原にABCを作り、  
近くの戸台山荘で中発隊の栗原に  
電話を入れたが、不在だったので  
後藤あい子に伝言を頼んだ。ABC  
Cに戻り時間も早かったが、寒く  
もあったので村松差し入れの日本  
酒を2人でチビチビとはじめる。

夕げは赤飯とビフテキのガリリッ  
ク焼き。日本酒は簡単に終わった  
ので、2本目の焼酎を飲み出す。  
袴田と飲むのは初めてだったが、  
彼も仲々いける口らしく、調子良  
く飲む。話題は会などの女性の話  
が中心でいろいろと楽しかった。

調子良く飲んでいたが、そのう  
ち袴田は「ちょっと」といってテ  
ントの外に出て「儀式」をやって  
しまった。ちよっとすすり過ぎた  
かなと反省した。

12月30日(晴)  
へタイム起床2:40 出発4:

45 丹溪山荘手前6:40 赤河原  
(尾根取付) 8:45 4合目10:  
40 後線13:35 6合目石室13:  
50 (泊)

夕べはよく眠れた。雑煮を食べ  
て出発。テントはがっちり補強し  
て、そのままにしておく。天気は  
マアアで星も見える。ヘッドラ  
ンプをつけて戸台川右岸の堰堤工  
事用の道を行く。

思えば21年前の初めての本格的  
冬山もここだった。当時は装備も  
粗末で、ヤッケもビニロン製で濡  
れるとバリバリに凍る代物。登攀  
具のカラビナも重い鉄製の時代  
だった。30kg以上になった荷物を  
背負って八丁坂を登り北沢峠に着  
いたときは薄暗くなっていた。そ  
の時、風雪の甲斐駒摩利支天独標  
ルートと水瀑の水晶沢を登攀した  
が、まだ若くもあり無我夢中だっ  
た。前者の登攀においては猛吹雪  
にあい帰幕したのがなんと24時を  
まわり「山でも朝帰りか」とから  
かわれた苦い思い出もある。

丹溪山荘手前で夜が明けた。赤  
河原への分岐はすぐ分かったが、  
そこからトレールはなかった。ス  
パッツとアイゼンをつけたが、  
降ったばかりの雪がふんわりと積  
もった河原は実に歩きにくかった。

左に大きな滝を持つ支流を見送り  
小さな滝を越えると右岸に尾根の  
取りつきを示す古い赤布が風に揺  
れていた。

尾根の下部は非常に急で、ほと  
んど垂直に登っているようで、い  
くら登っても赤河原は真下にあっ  
た。所々に「北鎌」のような針金  
のトラバースがあり緊張させられ  
必死に登って行く。振り返ると仙  
丈岳が大きく鎮座し、頂上付近か  
らは長い雪煙がなびいていた。天

気は高曇で下り坂の印象だった。  
非常に厳しい急登が続き、ようや  
く4合目に達すると傾斜も緩く  
なった。ここには幾つも祠があり  
石仏が発見された。夏なら一般の  
人でも、こんな厳しいところに来  
るのだろうか。荷物の重い袴田も  
がんばる。彼は細身できゃしゃだ  
が仲々どうしてがんばり屋だ。地  
図にもある「赤ガレ」によりやく  
着いた。この七丈ノ滝沢上部はい  
たとるところで崩壊が起きるものすこ

